EurekaⅧ

六年制通信　№30　令和３年１月 15 日（金）号

稽古

明けましておめでとうございます。今年も頑張って勉強しましょうね。

さて、毎日寒い。ものすごく寒い。皆さんもひょっとして気づいているかもしれませんが、私は大変な寒がりなんです。テレビで地球温暖化のニュースを観るたびに小さな声で「ええやん。温暖化でええやん。もっと暖かくなったらええねん。校庭でバナナ作ったらええやんか」とつぶやいています。10 日に三重中学校の入試を行いましたが、受験生の中に半ズボンの子がいましたよ。元気に校舎の中へ入っていきました。その様子を私はベンチコートを着て震えながら見ていました。子どもは寒くないのか。思い起こせば、この時期は中高を通して剣道の寒稽古をしていたはずなのですが、今考えても、こんな寒がりがよくやっていたと思います。

稽古と言えば、昔生徒に聞かれたことがありました。稽古と練習はどう違うのですか、と。英語だと両方とも practice（演劇ならリハーサル rehearsal かな）でしょうが、なるほど難しいな、そういうことに疑問を持つことはいいことだと一頻り誉めた後で改めて考えてみました。まず、稽古という言葉が初めて使われたのは『古事記』の「序」ですね。稽古照今（けいこしょうこん）の出典も同じ箇所です。岩波文庫の『古事記』では早くも 14 ページに出ています。「古（いにしえ）を稽（かんが）へて…」、これを福永武彦の現代語訳では「過去のことがらを参照して」としています。稽古のもともとの意味は「昔のことを勉強して今に生かす」ことだったのですね。

辞書も見てみましょうか。いつもの新明解国語辞典によれば　稽古とは「〔昔のことを手本にし参考にする意〕学問・技術を習うこと。〔狭義では、武芸や芸能などを習うことを指す〕」のであり、練習とは「技術や芸事などが上達するように、同じことを何度も繰り返して習うこと」という定義です。稽古の語源を踏まえた解釈がしてあるのと、稽古の範疇に学問が入っているのが面白いですね。いずれにしても、どうやら武芸や芸事、剣道とか弓道とか茶道とか、「～道」の練習のことを稽古と呼ぶようですね。それ以外のスポーツなどは練習でいいようです。稽古も練習も繰り返し同じことを習うという点では同じことです。ただ、武芸や芸事には代々伝わる形があって、これを文句なしに真似るところから始まるのが特徴だと思います。形と書いて「かた」と読みます。歌舞伎の世界には有名な言葉があります。みっちりと形を稽古した後に自分らしさを出せれば「形破り」、最初から形ができていないで勝手にやってしまうとそれは「形なし」だと、なるほどうまいことを言いますね。最初に習う形は簡単なようで最も肝心なものであって、どんなに上達してもまたここへ戻って、繰り返し稽古を積まなくて

はなりません。茶道の世界には「稽古とは 一より習い 十を知り 十よりかえる もとのその一」という千利休の言葉があります。味わい深い言葉です。茶道以外の武芸・芸事全般に当てはまるのではないかと思います。さらに武芸・芸事の特徴として挙げられるのは、礼儀作法にも決まった作法というか形があることでしょう。作法も習うのですね。芸事には勝ち負けのないものもあるでしょうが、試合があって必ず勝負がつく武芸などは、その所作は厳しく躾けられます（そのはずです)。特に勝負がついた瞬間の作法は礼節を重んじる美しいものでなくてはなりません。この点が練習をするスポーツと稽古を積む諸芸と明らかに違うところですね。囲碁や将棋に至っては、自分が負けましたと言って勝負が終わるのですから、そこには勝者の驕りはありません。敗者への礼節があります。投了の瞬間は美しいものです。ですから囲碁や将棋も「稽古」と呼んでいいですね。

稽古をしているはずなのに、礼節を忘れてしまったものもあります。私は相撲を観なくなりました。力士たちの所作があまりにも汚くなったからです。勝負がついた後ちゃんと礼をしません。土俵上の所作も実に見苦しい。ですから、今の相撲は「稽古」と言わずに「練習」と言うべきです。

また、口では礼節を重んじると言いながら、その振る舞いは真逆としか思えないスポーツもありますね。プロ野球界は礼節を重んじるとか言っていますが、野球は「稽古」ではなく「練習」のスポーツですから、無理に礼節とか言わなくてもいいのにといつも思ってしまいます。だって試合が終わった途端、負けた方の監督がベンチの椅子を蹴り上げて去っていくことがあるじゃないですか。監督が審判に暴言を吐き退場になったりします。また、当たってもいないのにデッドボールのアピールをする選手がいました。昔なら卑怯この上ない行為で武士の風上にも置けないはずですが、世界大会では自らのチームを侍ジャパンと命名しています。笑止千万ですね。ガム噛んで試合してますし。こういう大人を見ているから、甲子園で勝ったチームがマウンドに集まって指を突き上げジャンプしているあの姿になるのです。あれ、両チーム最後の礼の前にやっているのですが、あれのどこに敗者への礼節があるのですか。私が監督ならあんな無礼なこと、絶対にさせません。おっと、ちょっと悪口が過ぎましたかね…。

さて、君たちの身近なところで「礼に始まり礼に終わる作法」を守っている時間がありますよね。そうです。授業です。なるほど、先ほどの辞書の「稽古」の定義に「学問」が入っていましたが、毎日の授業も「稽古」と言っていいのかもしれませんね。

お知らせ

1月28日（木）には予定通り三重高入試を実施いたします。当初の予定では、コロナ感染による混乱を避けるため試験前日の27日（水）を休校としていましたが、昨今の状況を鑑み、26日（火）・27日（水）の両日を休校といたします。試験には中高の全校舎を使用しますので中学校も休校です。

25日（月）は①②限が授業で、のち会場準備。生徒諸君は昼食をとらずに下校します。急な変更でご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解下さい。